

14

昭和二十二年一月七日

戦史資料

獨立混成第百五旅團兵隊

21.12

陸



納谷真

1114

陸軍

戰史資料 獨立混成第百五十二旅團工兵隊 (南洋群島)

調製官 隊長 陸軍大尉 西川 壽郎

一、編成裝備関係

八、自己部隊及関係部隊、編制人員並兵器彈藥

人員

区分	編成定員	実人員
中隊長 (大尉)	一	一
小隊長 (中尉)	四	五
准尉	二	一
曹長	二	三
下士官	一九	七八
兵	一八六	二一二
兵技下士官	一	一
主計下士官	一	一

納谷 真

軍醫	一	一
衛生下士官	一	一
衛生兵	三	二
計	二二一	三〇八
兵器彈藥		
野戰工兵中隊(甲)ノ普通裝備		
爆藥投擲機	一	
火燭発射器	二	
小銃実包	三五〇〇発	
黄色藥	三〇〇発	
ダイナマイト	三発	
破甲爆雷	二一九発	
戦車地雷	一五〇発	
カーリット	四〇〇発	

陸軍

納谷良

黒色票

五冠

陸軍

2 職負表

職名	階級	氏名
中隊長	大尉	西川 崇郎 5p
小隊長	大尉	青山 博三 5p
"	中尉	土屋 郁三
"	"	山木 壽
"	"	緒方 今朝士 5p
"	"	長谷川 英一
"	"	及川 諒一 85p
軍醫	大尉	田坂 一之 5p

3 人負兵器等、増減関係

昭和十九年六月十日 締成改正 = 依り旧獨立混成第
 五師隊定員 = 二九名中 行李班三〇名ハ旅團

結谷 典

陸軍

司令部要員ト成リ南洋第三支隊工兵中隊ト合併編成、夕ノ前記編成定員並ニ実人負ト成ル

兵器ニ関シテハ大差ナシ

◁現地住民使役、関係

現地住民次、如ク雇入使用ス

自昭和十九年一月 三〇〇名
至、昭和十九年九月 八月

自昭和十九年九月 八五名
至、昭和二十年七月

終戦同時ニ全員ヲ解雇ス

二部隊ノ復歴ハ概要並ニ指揮隷屬関係

昭和十八年十月二十日 独立混成第五聯隊工兵中隊

トシテ編成 昭和十九年一月八日 南洋部島ホナペ島

ニ進駐 南洋第三支隊長 渡邊少将ノ隷下ニ入り

昭和十九年六月十日 南洋第三支隊工兵中隊ト合併

編成改正シ 獨立混成第五十二旅團工兵隊トス

網谷 貞

三 作戰準備関係

／ 作戰計画、概要

旅團工兵隊トシテ特別ノ事項ナク旅團計画ニ

ヨル

2. 陣地、状況

工兵隊トシテノ陣地掩壕

一。

四小隊^施各地区隊ニ配属各地区隊ノ陣地構築

ヲ実施本部直轄ニ小隊ハ旅團ノ直轄隊トシ

テ主要自動車、戦車道、戦闘司令所等構築

ヲ実施ス

3 作戰準備ニ関スル主要ナル命令

工兵隊トシテ特別ノモノナク旅團ノモノニ準ジ

4 軍需品集積ノ状況

各配属小隊ニ対シテハ配當携行セシメ其他

ハ中隊附近セケ所ニ疎開集積ス

自活ハ昭和十九年五月以降甘藷ヲ主食トスル

計画ヲ擧テ終戦當時甘藷畑三町ニ反

キヤツサバ三万本ノ植付ヲ実施シ昭和二十年

六月以降前々要量ノ半量ヲ自活ニ得ルニ至リ

昭和二十年十一月半ニ至リ全主食ノ自活可能ニ至

ル

副食物ハ昭和十九年十月以降現地住民三名

ヲ使用シ漁撈ヲ実施シ蔬菜ハ自活ニ割程

度ニ至ル

5 訓練ノ状況

敵戦車司令所砲兵物資集積所等ノ潜入

爆破ニ関スル訓練ニ重兵ヲ指向セルモ所命

ハ工兵的作業ノタメ訓練ノ時日僅少ナリ

四、戦闘状況

特記事項ナシ

五、給養衛生

携行糧食ヲ保存確保ニ努メテ自活生産財相
待ツテ給養ノ改善向上ニ努カセルモ其ノ自活ノ
状況前述ノ如シ

編成改正ニ至ル迄隊付軍醫トシテ他隊ノ診療

ヲ受ケタルモ昭和十八年末迄ハ一般ニ健康状

態良好ナリシモ二十年一月以降多濕過勞ノ

多メ胸部疾患相當數發生スルニ至リタリ

特ニ三十歳以上ノ召集者ノ健康状態ハ不良ナ

カリ

六、終戦後帰還途ノ行動ノ概要

日本再建ノタメ必要ナル資質ノ向上体位ノ

練成ニ努ムル傍米側ノ要求作業ノ技術作
業ニ従事ス

陸軍

納谷 與

1122